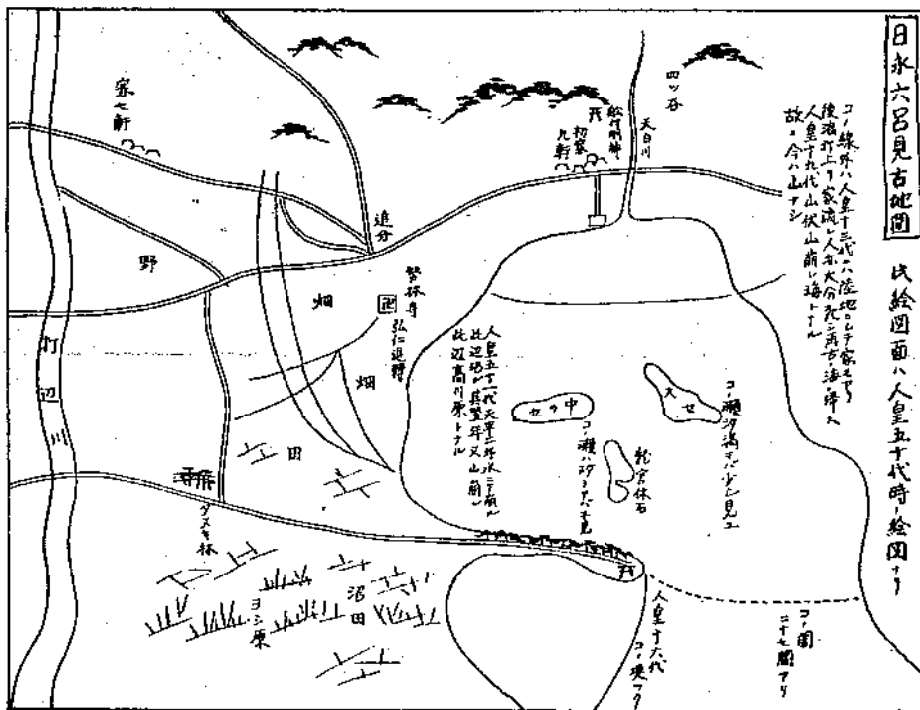


ところで、河後郷の本所は名称の通り「川尻」でした。今でこそ川尻町は塩浜から離れた西方にあります。これは後年の水害の関係で現在地に移ったからで、昔はもつと塩浜に近い大里と現在の在所との中間の辺りでした。下の古地図でもわかるように、川尻に集落ができた頃は、塩浜辺りはまだ一面の葦原で沼地が広がる海辺だったものと思われます。しかし、内部・鈴鹿両河川が絶えず土砂を流して浅瀬を埋め立て次第に土地を作つていきました。その様子は現在でも磯津橋周辺の河川敷で見ることが出来ます。

こうして土地らしいものができると、川尻付近から川沿いに耕作する人が出てきて、今の大里辺りに住み着き始めたのでしよう。これが塩浜村の始まりだったと考えられます。ですから、塩浜で最も早くできた在所は大里だったでしょうし、このことは江戸時代の「塩浜村差出帳」にも大里は塩浜の本郷（もとごと）と書かれていますことから推測されます。（五ページ参照）

しかし、人々が大里辺りに住み着いたといつても、そこにはまだ暮らしていけるほどの耕地はなかったでしょう。ですから、細々と土地を耕しながら、時には海で魚をとつたり、浜辺で塩を焼いたりという生活を長い年月続けていたものと思われます。



四日市市史 昭和三十六年版

その後、川に沿って土地が次第に東へ延びるにつれて川合町ができ、川口から海岸沿いの高台に塩浜本町・御園町・さらに馳出へと人々が住み着いていったものでしょう。